

5. 国際交流状況

①国際シンポジウム等の主催・参加状況

(1)主催状況

区 分		令和 5 年度	
主催件数		2	
主催した主な国際シンポジウム等			
	開催時期	国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 等 名 称	参 加 人 数 (うち外国人数)
1	R5.9.28	第 5 回国際シンポジウム マダニとマダニ媒介感染症の制御戦略	41 (32)
2	R5.10.24 ～10.26	JSPS Core to Core Program / Kick-off meeting Establishment of South-South and Triangular Cooperation Core for Elimination of Asian Zoonotic Schistosomiasis	32 (22)

(2)参加状況

区 分		令和 5 年度	
参加件数		3	
参加した主な国際シンポジウム等			
	開催時期	国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 等 名 称	参 加 人 数
1	R5.5.1～ 5.3	3rd Joint Meeting of Veterinary Science in East Asia	3
2	R5.7.11～ 7.15	SSR 56th Annual Conference	2
3	R5.8.21～ 8.24	第 29 回世界獣医寄生虫学会	2

②国際学術交流協定の状況

協定総数	13						
締結年月	終了予定年月	相手国	機 関 名	協定名	分 野	受入 人数	派遣 人数
2008 年 11 月	2028 年 3 月	フィリピン	フィリピン大学マニラ校公衆衛生学部	MOU	原虫病	5	5
2010 年 9 月	2025 年 9 月	中国	中国農業科学院上海獣医学研究所	MOU	原虫病	0	0
2016 年 6 月	2026 年 6 月	ブルキナファソ	ワガドゥーグー大学	MOU	原虫病	0	0
2017 年 6 月	2027 年 12 月	南アフリカ	ノースウェスト大学	MOU	原虫病	2	1
2019 年 6 月	2024 年 6 月	モンゴル	モンゴル獣医学研究所	MOA	原虫病	2	6
2019 年 7 月	2024 年 7 月	フィリピン	フィリピンカラバオセンター	MOU	原虫病	0	0
2019 年 7 月	2024 年 7 月	スリランカ	スリランカ動物生産健康局	MOU	原虫病	0	0
2019 年 10 月	2028 年 2 月	フィリピン	カビテ州立大学	MOU	原虫病	0	0
2021 年 10 月	2026 年 10 月	中国	新疆農業大学獣医学部	MOA	原虫病	2	3
2022 年 6 月	2027 年 6 月	フィリピン	ダバオデルスル州立大学	MOU	原虫病	0	0
2022 年 8 月	2025 年 8 月	メキシコ	ケレタロ自治大学自然科学学部	MOU	原虫病	2	0
2023 年 7 月	2028 年 7 月	キルギス	キルギス共和国獣医科学研究所	MOU	原虫病	1	0
2023 年 11 月	2028 年 11 月	韓国	SD バイオセンサー社	MOU	原虫病	0	0
合 計						14	15

③国際的な研究プロジェクトへの参加状況

総 数	11		
参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和元年度～令和5年度	ウガンダ・マケレレ大学および Kiboga 県の農家、獣医師、畜産技師	プロジェクト名:独立行政法人国際協力機構 草の根技術協力事業パートナー型、マダニ媒介感染症制御による畜産農家支援プログラム プロジェクト概要:これまでに蓄積した研究成果の社会還元事業である。より具体的には、科学的根拠に基づいたマダニ駆除ならびにマダニ媒介感染症対策プログラムを構築し、対象農家の生産性を改善しようとするものである。 参加国:日本・ウガンダ 予算見込み額:10,000 万円	鈴木 宏志 玄 学南 藤崎 幸蔵 ら
令和元年度～令和5年度	タイ・チェンマイ大学・プリンスオブソンクラ大学	プロジェクト名:国際共同研究強化 (B)、フィリリアを媒介しない蚊作出に向けたタイ王国における犬糸状虫の生態疫学調査 プロジェクト概要:蚊は病原体の媒介者として、人類に最も脅威を与えている生物 (Top Deadliest Animal)である。殺虫剤耐性、生態系への影響などへの問題から、殺虫剤による蚊の撲滅は困難である。そこで病原体を媒介しない蚊へと置換することで、感染症を制圧できないかとの概念が浮上してきた。近年のゲノム編集技術の進歩により、病原体を媒介しない蚊の実現が技術的に可能となってきた。そこで本研究では、犬糸状虫を媒介しない蚊の作出実現にむけた基礎的知見を得るために、タイ王国で犬と蚊における犬糸状虫症疫学調査を行い、どのような遺伝子応答が蚊による犬糸状虫の媒介に重要なのかフィールドレベルで解析を行うことを目指す。 参加国:日本・タイ 予算見込み額:1,410 万円	福本 晋也

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和2年度～令和6年度	モンゴル・モンゴル生命科学大学	プロジェクト名：国際共同研究強化（B）、モンゴルにおける小型反芻獣トキソプラズマ症のワクチン開発研究 プロジェクト概要：モンゴルでは様々な家畜感染症が発生しており、家畜疾病に対する予防・対策のニーズは高く、早急な対応が必要となっている。特に家畜における繁殖障害は経済的な損害が大きく、これに関連する病原性原虫としてトキソプラズマの存在が示唆されている。そこで本研究では、モンゴルの重要な家畜資源である小型反芻獣に着目し、トキソプラズマ感染に対する新しいワクチンの開発を目指す。モンゴル由来原虫株を分離し、細胞スクリーニング法による免疫刺激型抗原の同定、プロテオームによる自然感染動物で認識される感染認識抗原の同定を進め、これら抗原を組み合わせたカクテルワクチンの開発を進める。さらに、遺伝子破壊原虫の解析で新規ワクチン抗原の機能を理解し、小型反芻獣への感染実験を通じて新規ワクチンの効果と防御免疫反応の詳細を明らかにする。 参加国：日本・モンゴル 予算見込み額：1,450万円	西川 義文
令和2年度～令和5年度	ウガンダ・マケレレ大学、ケニア・ナイロビ大学、タンザニア・ソコイネ農業大学、ブルキナファソ・ワガドゥーグー大学、南アフリカ・ノースウェスト大学、エジプト・メノフィア大学	プロジェクト名：JSPS 拠点形成事業－B.アジア・アフリカ学術基盤形成型、アフリカにおけるマダニ媒介原虫病の制圧に向けた国際共同研究拠点の構築 プロジェクト概要：ゲノム科学に立脚した、アフリカの各流行地域に適したマダニ媒介原虫病に対する斬新な診断・治療・予防法の創出を通し、アフリカ諸国における家畜生産性向上への貢献を目的とした国際ネットワークのプラットフォームを形成する。 参加国：日本・ウガンダ・ケニア・タンザニア・ブルキナファソ・南アフリカ・エジプト 予算見込み額：1,932万円	玄 学南

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和4年度～令和5年度	チェコ・チェコ共和国科学アカデミー寄生虫学研究所	プロジェクト名：JSPS 二国間交流事業共同研究／セミナー、DiCre/loxP システムを応用した遺伝子改変バベシア原虫の創出 プロジェクト概要：DiCre/loxP システムを応用した遺伝子改変バベシア原虫を作成して、遺伝子組換え生ワクチンを作製することを目的とする。具体的には、チェコ科学アカデミーバイオロジーセンター・寄生虫学研究所 (BC ASCR) が同定した欧州産バベシア原虫の増殖関連因子 (BdAPD3) 遺伝子を、帯広畜産大学原虫病研究センター (NRCPD) が確立している遺伝子改変原虫 (GAP) 作製技術を応用して、随意破壊することで、動物体内での増殖が制御可能な GAP ワクチンを作製する。 参加国：日本・チェコ共和国 予算見込み額：475 万円	河津 信一郎
3 年度～令和 6 年度	タイ・チュラロンコン大学	プロジェクト名：国際共同研究強化 (B)、家畜住血微生物病の新規制御法創出に向けたマラリア原虫・他住血微生物相互作用の解明 プロジェクト概要：スイギュウやヤギのマラリア原虫の病原性や生活環を明らかにするとともに、他の住血微生物との混合感染状況を明らかにする。住血微生物の混合感染状況と症状の解析を行うと共に、微生物間の干渉に焦点を当てた、家畜住血微生物病の新規制御法創出を行う。 参加国：日本・タイ 予算見込み額：1,470 万円	麻田 正仁
令和4年度～令和6年度	モンゴル・モンゴル獣医学研究所	プロジェクト名：国際共同研究強化 (B)、馬ピロプラズマ病に対する国際標準血清診断法の開発に向けた学術基盤研究 プロジェクト概要：馬ピロプラズマ病に対する現行の血清診断法には致命的な欠陥があることが指摘され、しばしば大きな社会問題を引き起こしている。そこで、モンゴル国で多発している馬ピロプラズマ病の罹患馬を研究対象に、現行の血清診断法の問題点を科学的に実証し、その成果に基づいて新たな馬ピロプラズマ病に対する国際標準血清診断法を開発していく。 参加国：日本・モンゴル 予算見込み額：1,540 万円	横山 直明

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和4年度～令和5年度	スリランカ・スリランカ動物生産管理局・獣医学研究所	プロジェクト名：JSPS 二国間交流事業協同研究／セミナー、新牛タイレリア (<i>Theileria</i> sp. Yokoyama) の分離及び性状解析 参加国：日本・スリランカ プロジェクト概要：我々が発見した新牛タイレリア (<i>Theileria</i> sp. Yokoyama) の野生株を、汚染国であるスリランカ国で分離・培養し、そのリンパ球感染原虫を多角的に解析することで、病原性解明や診断・予防・治療の開発に繋がる“生物学的並びに遺伝学的な基礎的知見”を共同で収集する。 参加国：日本・スリランカ 予算見込み額：390万円	横山 直明
令和4年度～令和5年度	南アフリカ・ノースウェスト大学	プロジェクト名：JSPS 二国間交流事業共同研究／セミナー、ニトロフランおよびその関連化合物に着目したトリパノソーマ症新規経口治療薬の開発 プロジェクト概要：医療・獣医療インフラの未整備な農村地帯で流行しているヒトと動物のアフリカトリパノソーマ症制御に向けて、ニトロフラン系化合物群の合成と <i>in vitro</i>, <i>in vivo</i> での抗トリパノソーマ活性の検証を行い、経口投与可能な治療薬および予防薬開発を目指す。 参加国：日本・南アフリカ 予算見込み額：237万円	菅沼 啓輔

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和5年度～令和7年度	インドネシア・インドネシア国立研究改革庁、カンボジア・カンボジア保健省国立マラリアセンター、ラオス・ラオス熱帯医学公衆衛生研究所、フィリピン・フィリピン大学マニラ校、フィリピン農業省カラバオセンター	プロジェクト名：JSPS 拠点形成事業－B.アジア・アフリカ学術基盤形成型、アジア型住血吸虫症の排除に向けた南南・三角協力拠点の構築 プロジェクト概要：住血吸虫症は世界的に分布する人獣共通感染症で、WHOはこの感染症をNTDsの一つに指定して、そのコントロールを推進している。アジアでは、日本住血吸虫症及びメコン住血吸虫症が、それぞれ、中国・フィリピン・インドネシア及びカンボジア・ラオスの農村や漁村で流行している。住血吸虫症の排除に向けては、患者の治療及び患者への感染源となる動物（保虫宿主対策）への対策を並行して行う必要がある。一方、寄生虫病の高度流行地では患者の特効薬プラジカンテルによる治療が最優先課題になるが、診断法の不備から、この対策を巧く運用できていない。そこで、フィリピン大学との共同研究で開発した診断技術を社会実装するため、フィリピン大学マニラ校公衆衛生学部、フィリピン農業省カラバオセンター、インドネシア国立研究改革庁、カンボジア保健省国立マラリアセンター及びラオス熱帯医学公衆衛生研究所に、アジア型住血吸虫症の排除に向けた高度診断・疫学調査協力拠点を構築する。 参加国：日本・インドネシア・カンボジア・ラオス・フィリピン 予算見込み額：1,800万円	河津信一郎

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和5年度～令和9年度	フィリピン・フィリピン大学	プロジェクト名：国際共同研究加速基金(海外連携研究)、ワンヘルス・アプローチに基づく日本住血吸虫症対策の創出を目指した研究 プロジェクト概要：日本住血吸虫症の排除を達成するには、患者の治療及び患者への感染源となる動物（保虫宿主）への対策を並行して行う必要がある。住血吸虫症の治療には特効薬プラジカンテルが用いられ、一般に、この薬による流行地住民への集団治療（MDA）が、この寄生虫病の流行が認められる国と地域での主要な対策になっている。本研究では(1)独自に開発した診断法を応用した住民と動物での有病率の調査及び(2)寄生虫ライフサイクルの推定を目的としたマイクロサテライトマーカーによる多座位の遺伝子型解析（STR/MLG）技術に立脚して、ヒトと動物の双方を対象にした集団治療（One-Health MDA）を寄生虫病対策の現場で試行し評価することを目的とする。 参加国：日本・フィリピン 予算見込み額：1,620万円	河津信一郎

④研究者の海外派遣状況・外国人研究者の招へい状況（延べ人数）

		令和 5 年度	
		派遣状況	招へい状況
事業区分	合 計	67	40
	文部科学省事業	0	0
	日本学術振興会事業	29	24
	当該法人による事業	28	7
	その他の事業	10	9
派遣先国	① アジア	39	29
	② 北米	3	1
	③ 中南米	0	2
	④ ヨーロッパ	5	4
	⑤ オセアニア	1	0
	⑥ 中東	0	1
	⑦ アフリカ	19	3

⑤その他・国際研究協力活動の状況

事業名等	概要	受入人数	派遣人数
JICA 国別研修（エチオピア）	人獣共通感染症対策（寄生虫病含む）研究者育成コース	1	
JICA 課題別研修	人獣共通感染症コントロールのための検査技術と研究能力強化コース	10	
合 計		11	